

# 第63回日本小児神経学会学術集会

PowerPointを使用した動画（音声有りスライド）作成マニュアル

English Session ・ 一般演題演者用（優秀演題除く）

# 目次

- 録音環境条件について . . . . P1
- マイクの確認方法 . . . . P2~3
- 注意事項 . . . . . P4
- 録音時のポイント . . . . P5

## 【操作方法】

- Windows PowerPoint2010の場合 . . . . . P 6~ 9
- Windows PowerPoint2013/2016の場合 . . . . . P10~13
- Windows PowerPoint2019/office 365の場合 . . . P14~18
- Mac        PowerPoint 2019 for Mac の場合 . . . P19~27

# 録音環境条件について

## 1. 音声入力ができる環境

出来る限り静かな場所で録音を行ってください。

内臓マイクを使用することも可能ですが、雑音が入ることがございますのでヘッドセットなど、外付けのマイクの使用を推奨します。

## 2. PCにPowerPointを搭載していること

Windowsの場合→PowerPoint 2010,2013,2016,2019, office365のいずれか

Macの場合→PowerPoint for Mac 2019,office 365 のどちらか

【推奨 version】 Windows版:2019/office365      Mac版:2019/office365

# マイクの確認方法

「スタート」>「設定」>「システム」>「サウンド」と選択し、入力デバイスが登録されていることを確認します。「マイクのテスト」では試しに喋り、反応することを確認します。

**1 : Windowsマークをクリック**  
**2 : 設定マークをクリック**

**3 : システムをクリック**  
**4 : サウンドをクリック**

登録されていれば、  
繋げたマイクの名前が出ます

声を出した時に  
「マイクのテスト」  
に反応があります

- Windowsでもカメラ付きのPCであれば、PC内臓マイクで録音は可能です。  
(使用PCの仕様書参照)
- USB以外でも4極のミニピンのマイクがあればそちらで録音も可能です。  
(スマートフォン購入時に付属してくるマイク付きイヤホンなど) (下記①②画像参照)

上記以外のWindowsのPCをご利用の場合、USB接続のマイクが必要です。

MacのPCはマイクが内臓されておりますのでUSBマイクなどを使用せずに録音をすることも可能です。

①挿し口



②4極ミニピンマイク



# 注意事項

- 発表は7分以内にまとめてください。時間厳守でお願い致します。
- PowerPointの1枚目はタイトル、2枚目に利益相反のスライドを入れてください。利益相反について詳細はこちら  
<http://www.congre.co.jp/jscn2021/abstract/index.html#001>
- 非表示設定をしない限り、全てのスライドが動画に組み込まれてしまいます。プレゼンで使用しないスライドは、削除もしくは非表示スライドに設定してください。全てのスライドが動画変換時に組み込まれてしまいます。
- 作成した音声付きスライドは、必ずアップロード前にご自身で再生してご確認ください。

# 録音時のポイント

## ◆始める前にマイク設定をご確認下さい

ヘッドセットや外付けマイクの使用を推薦します。

※まずは2枚目までを録音をして、音量、音質の確認テストをお願いします。

## ◆スライド切替後は必ず毎回一呼吸置いて話し始めてください。

PowerPointの録音は各スライド毎の録音データになります。話をしながらスライドを切り替えてしまうと、音声途切れてしまう事があります。次のスライドに進んだ後は、一呼吸を置いて、何も録音しない余白の時間を一瞬作るように意識していただくことがお勧めです。

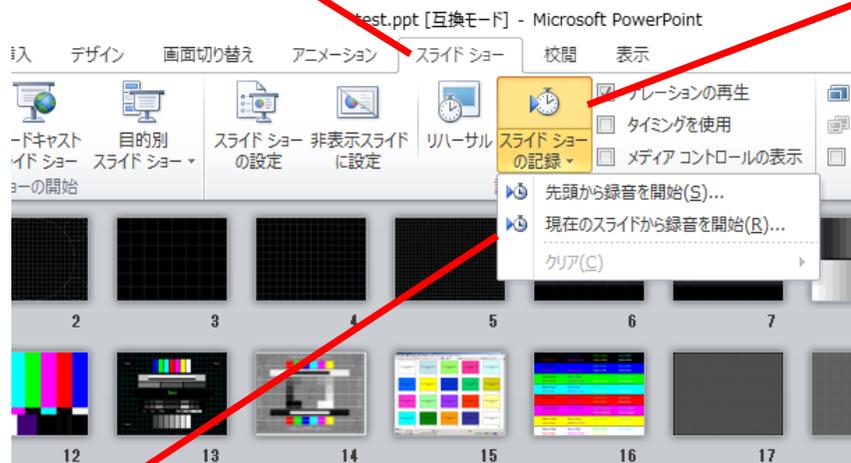
## ◆なるべく一度で録音を終了してください。

修正すると、うまく繋がらずに不具合が起こる可能性があります。  
録音をやり直した場合はズレが無いかな必ず確認してください。

# Windows PowerPoint2010の場合

① : [スライドショー]  
タブをクリック

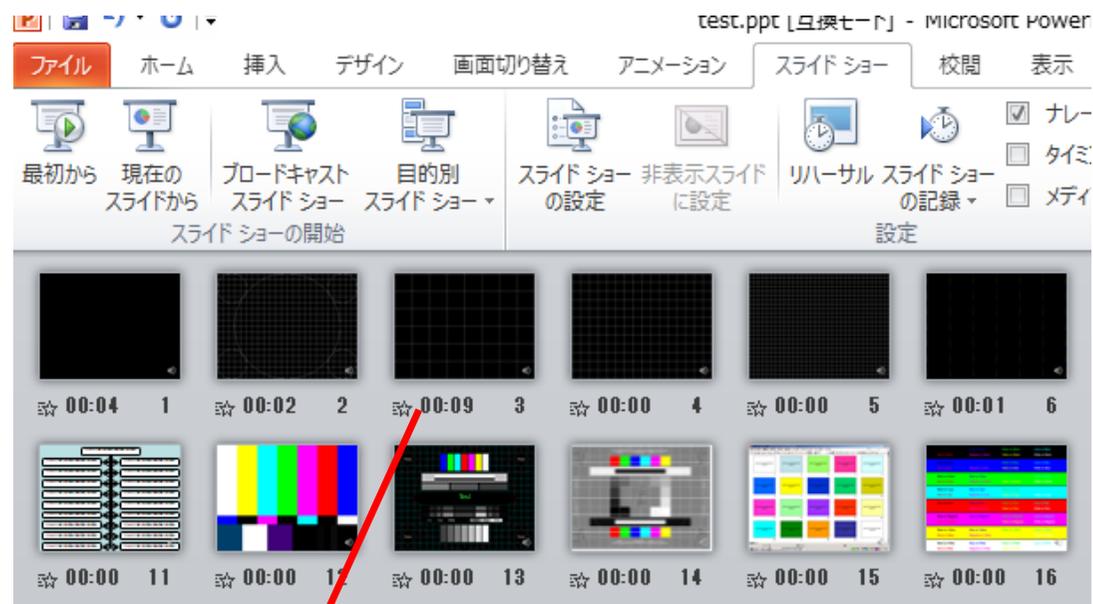
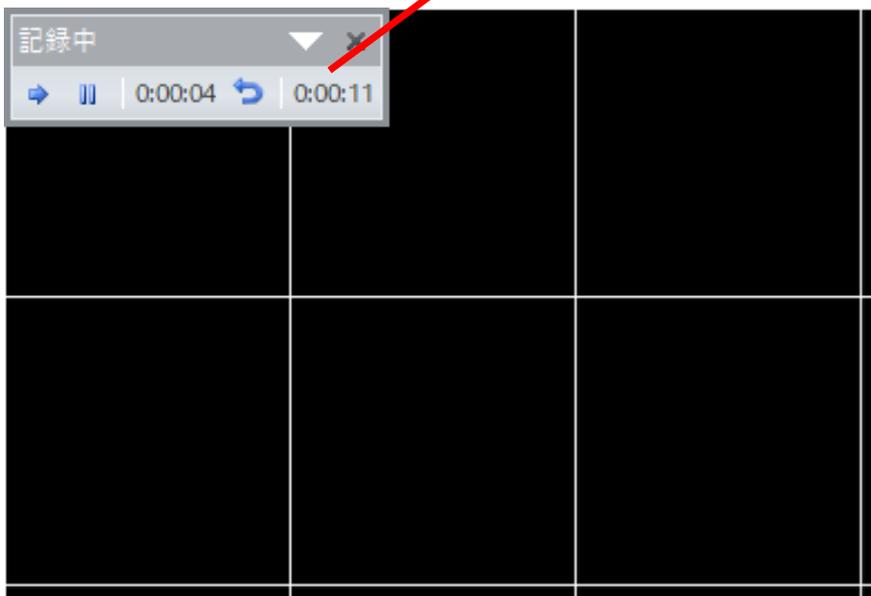
② : [スライドショーの記録]  
をクリック



③ : [先頭から録音を開始]  
をクリック

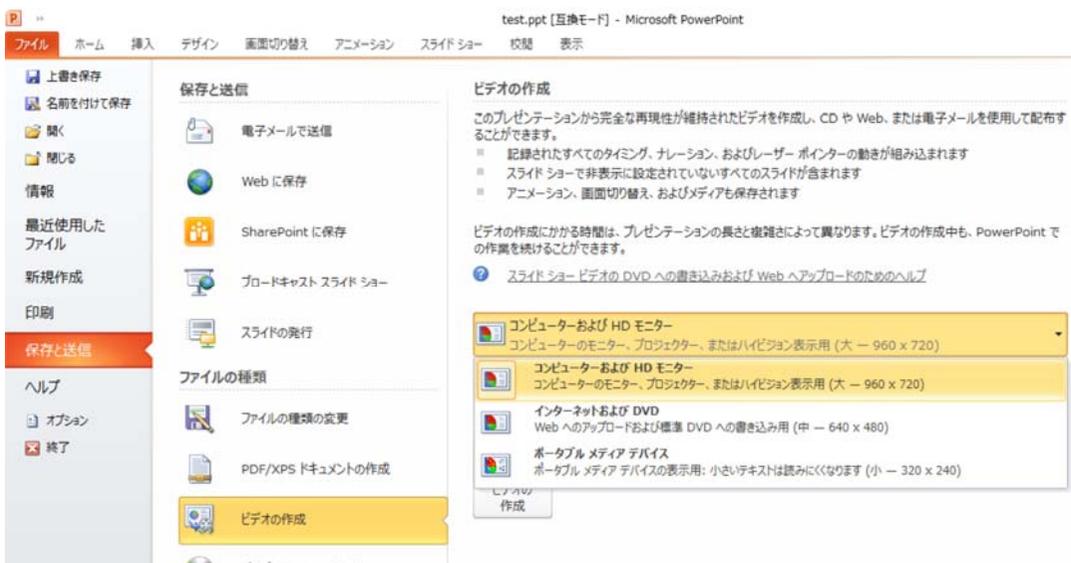
④ : [スライドショーとアニメーションのタイミング]  
[ナレーションとレーザーポインター] のチェックが  
入っている事を確認して記録の開始

⑤ : 左上の記録中を確認し、プレゼンテーションを進める



⑥ : スライドショーを最後まで進めて終了し、スライダー表示でみていただき、各スライドの左下に時間が明記されていることを確認。PowerPointを保存（新しく名前を付けて保存）する。再度ファイルを開きスライドショーで確認して音声やスライドのタイミング等問題ないか確認。

⑦ : スライドを確認して問題なければ、書き出しを行う。  
**【ファイル】 → 【保存と送信】 → 【ビデオの作成】**  
 で書き出します。



**ビデオ解像度は [1280×720] を選択**

**【記録されたタイミングとナレーションを使用する】を選択**

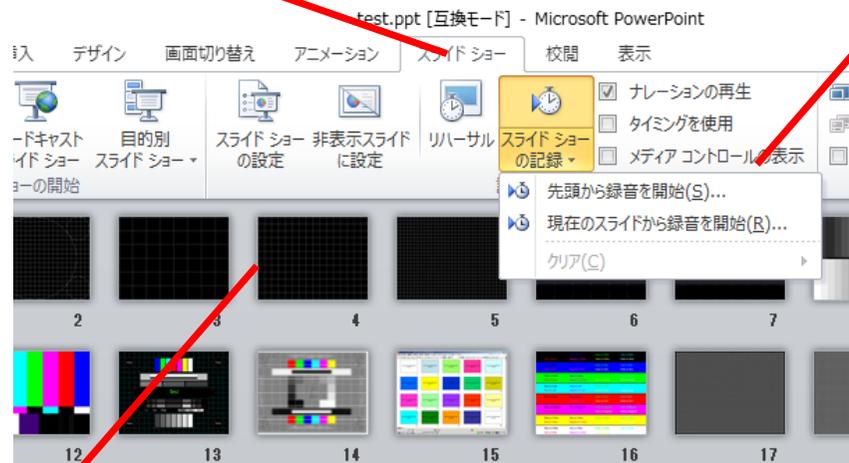
- 最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。ファイル名を指定し、ファイル形式ではMP4形式を選択します。
- ファイル名は「演題番号\_演者名 例O-01\_福岡太郎」としてください。
- 右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。
- 動画作成の進捗は、右下に表示されます。

**※20分のスライドショーから中程度の品質の動画を作成するのに約20分かかります。**

# Windows PowerPoint2013/2016の場合

① : [スライドショー]  
タブをクリック

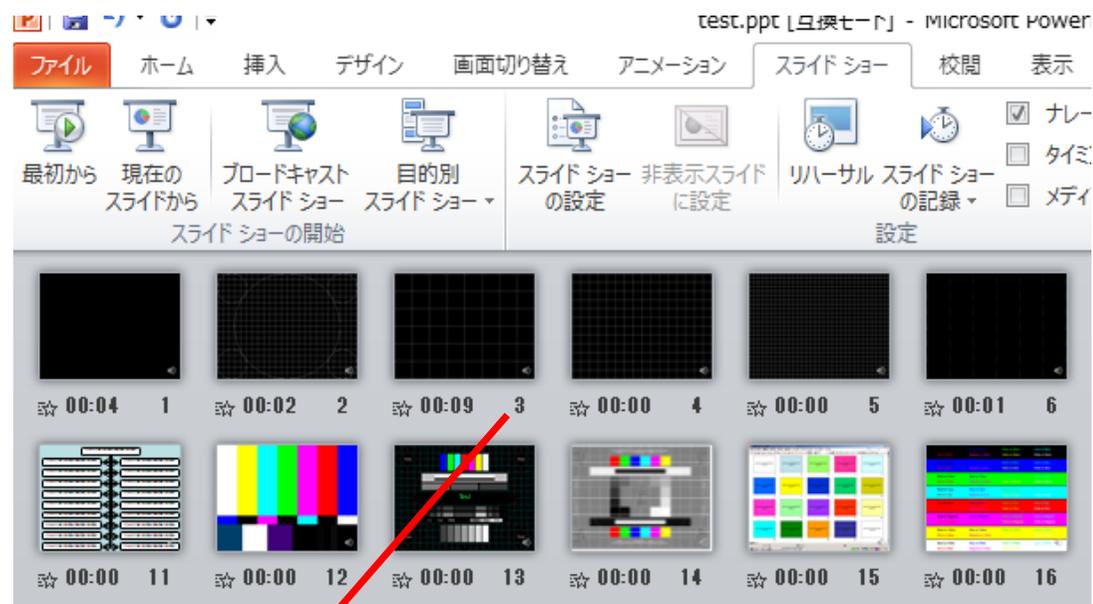
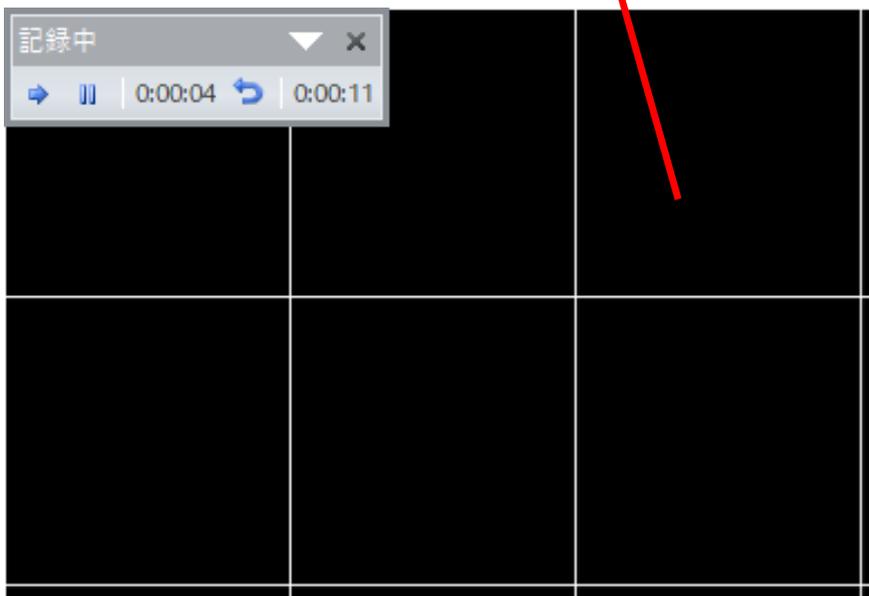
② : [スライドショーの記録]  
をクリック



③ : [先頭から録音を開始]  
をクリック

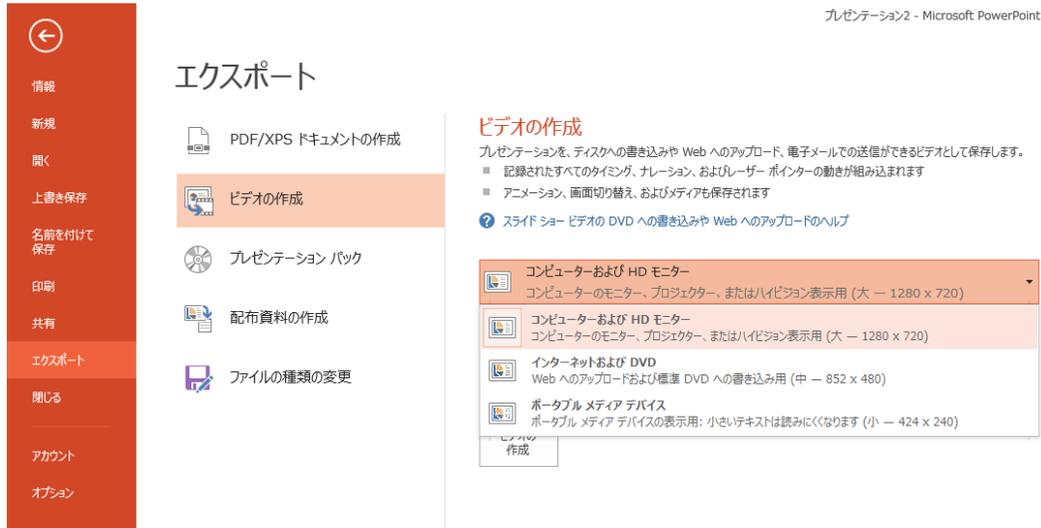
④ : [スライドショーとアニメーションのタイミング]  
[ナレーションとレーザーポインター] のチェックが  
入っている事を確認して記録の開始

⑤ : 左上の記録中を確認し、プレゼンテーションを進める

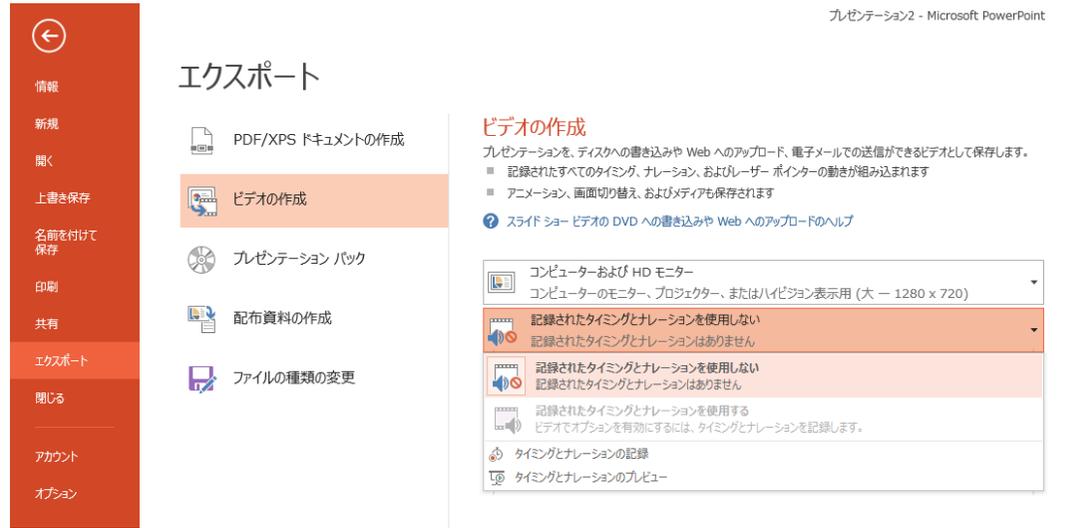


⑥ : スライドショーを最後まで進めて終了して、スライド一覧表示にみていただくと、各スライドの左下に時間が明記されていることを確認。  
PowerPointを保存（新しく名前を付けて保存）する。  
再度ファイルを開きスライドショーで確認して音声やスライドのタイミング等問題ないか確認。

⑦ : スライドを確認して問題なければ、書き出しを行う。  
【ファイル】 → 【保存と送信】 → 【ビデオの作成】  
で書き出します。



**ビデオ解像度は【1280×720】を選択**



**【記録されたタイミングとナレーションを使用する】を選択**

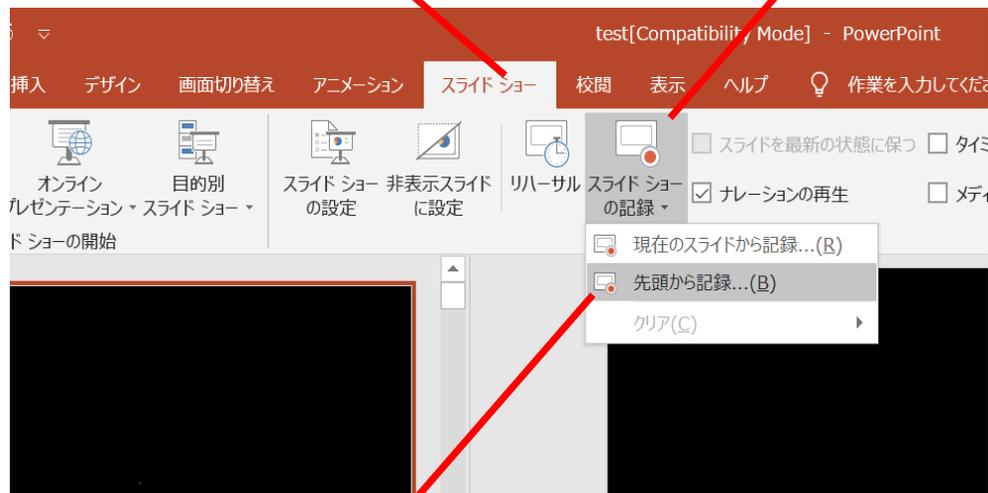
- 最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。ファイル名を指定し、ファイル形式ではMP4形式を選択します。
- ファイル名は「演題番号\_演者名 例：001\_福岡太郎」としてください。
- 右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。
- 動画作成の進捗は、右下に表示されます。

**※20分のスライドショーから中程度の品質の動画を作るのに約20分かかります。**

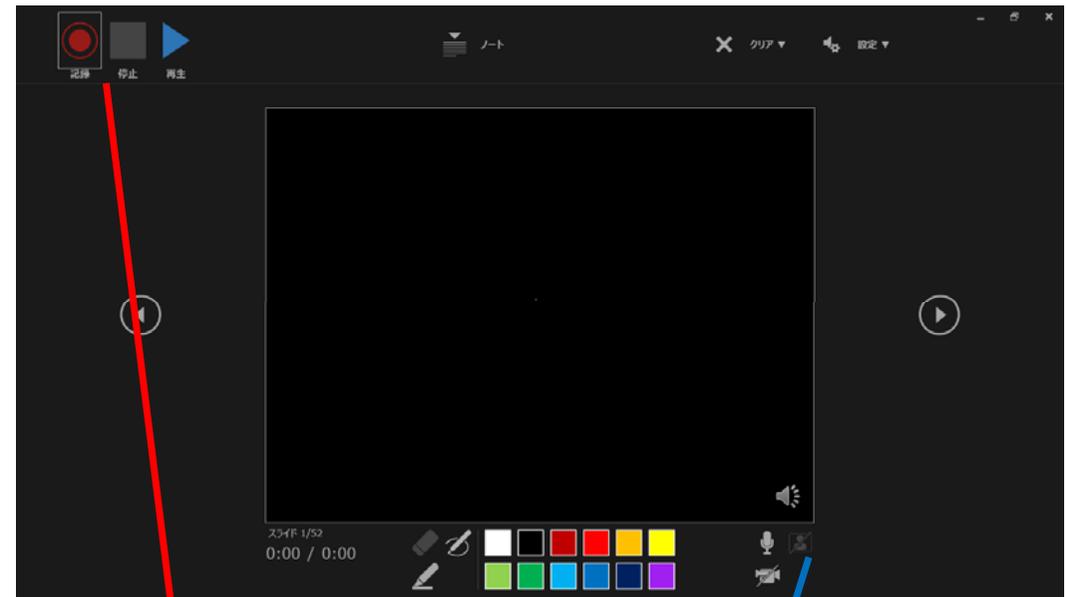
# Windows PowerPoint2019/Office 365の場合

① : [スライドショー]  
タブをクリック

② : [スライドショーの記録]  
をクリック



③ : [先頭から録音を開始]  
をクリック

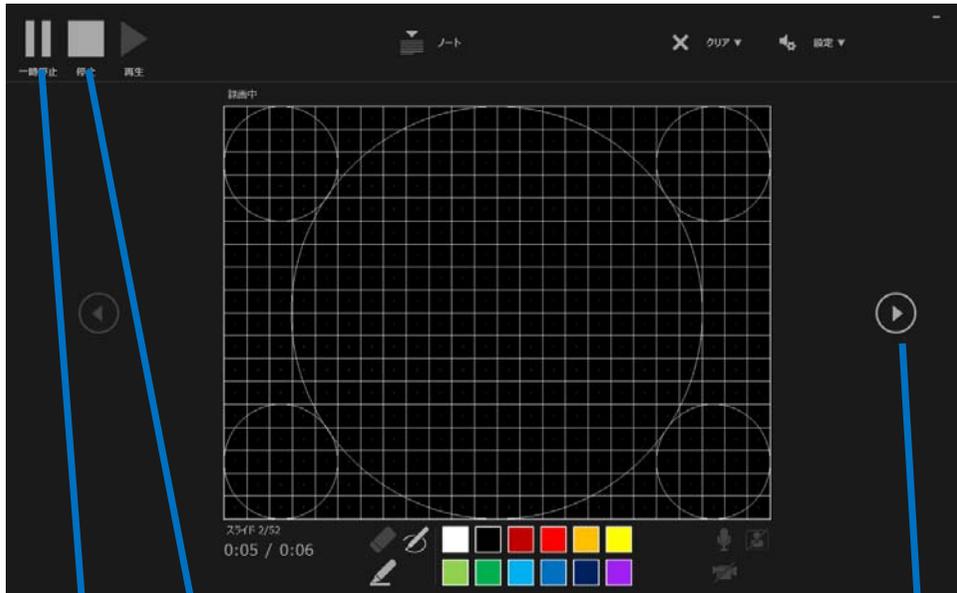


④ : [記録の開始] をクリック

ご自身の顔を表示したくない場合は  
[カメラのプレビューをオフにする] を  
クリック

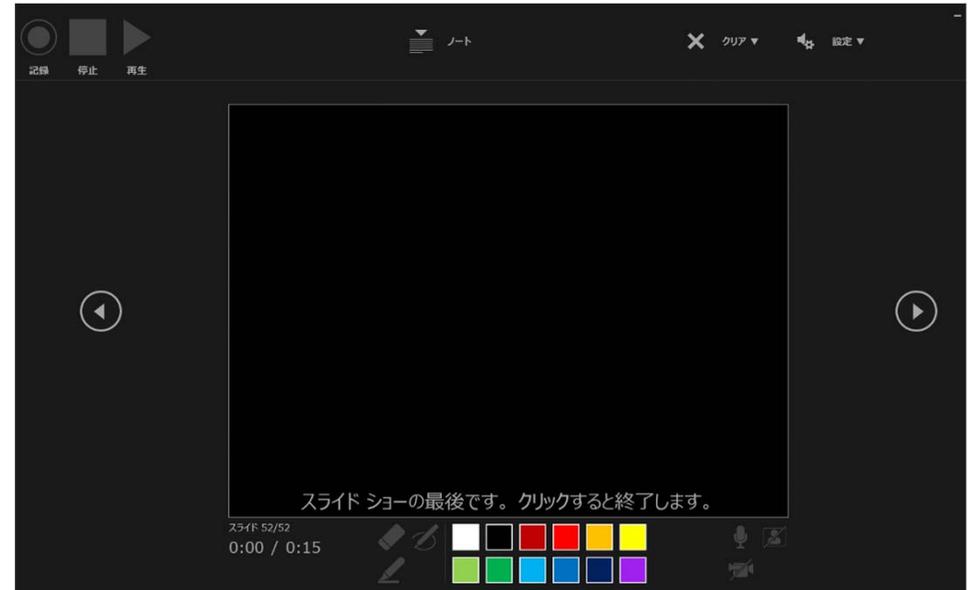
⑤ : マイクに向かってナレーション録音  
スライドも任意のタイミングで進める

⑥ : 下記画面まで進めると自動的に録画が停止になります。  
スライドをもう一枚進めると元の画面に戻ります。

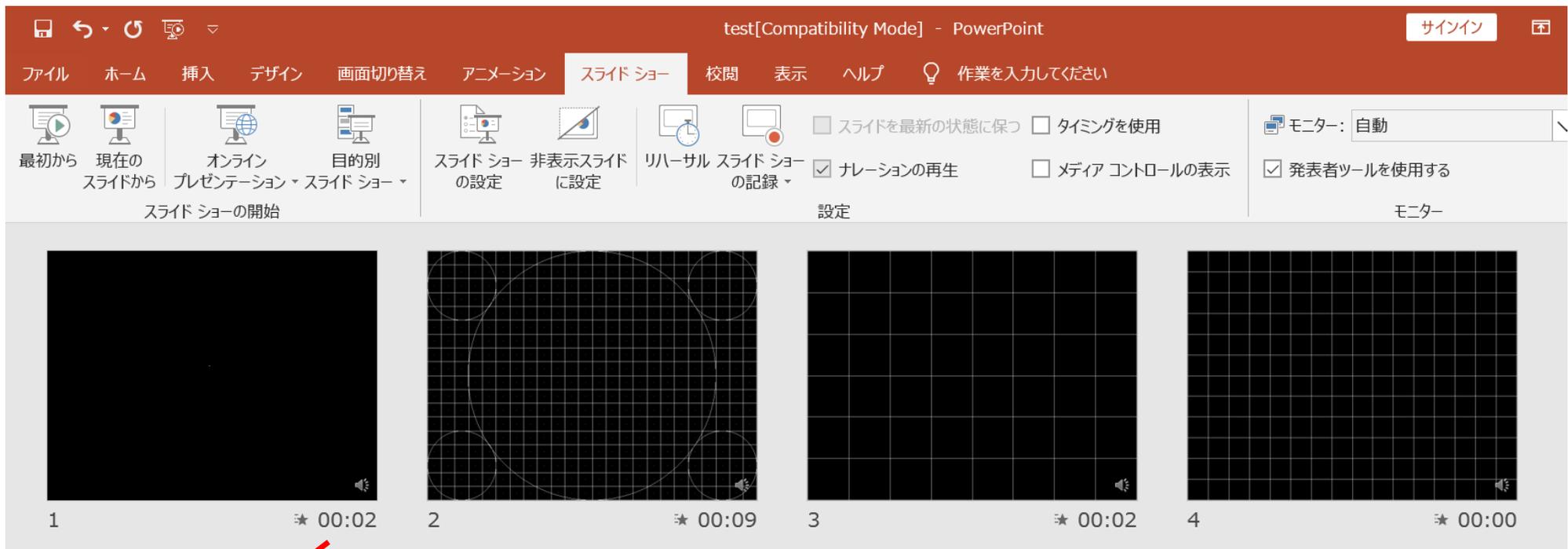


「記録の停止」をクリックすると  
そこまでの記録が残ります

「記録の一時停止」をクリックすると  
再生中のアニメーションが止まります



ここをクリックもしくは  
スライド上をクリックすると次の  
アニメーションに進みます

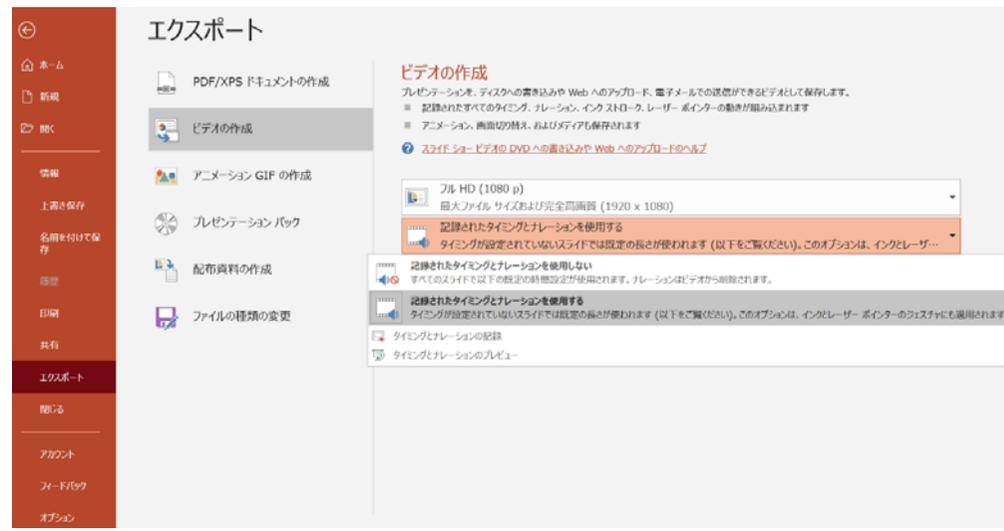


⑦ : スライドショーを最後まで進めて終了し、スライド一覧表示にて、各スライドの左下に時間が明記されていることを確認。PowerPoint を保存（新しく名前を付けて保存）する。再度ファイルを開きスライドショーで確認して音声やスライドのタイミング等問題ないか確認。

⑧ : スライドを確認して問題なければ、書き出しを行う。  
 [ファイル] → [保存と送信] → [ビデオの作成]  
 で書き出します。



**ビデオ解像度は [1280×720] を選択**



**[記録されたタイミングとナレーションを使用する] を選択**

- 最後に、「ビデオの作成」をクリックすると、すぐに「名前を付けて保存」というウィンドウが現れます。ファイル名を指定し、ファイル形式ではMP4形式を選択します。
- ファイル名は「演題番号\_演者名 例O-01\_福岡太郎」としてください。
- 右下の「保存」をクリックすると、動画が作成され自動的に保存されます。
- 動画作成の進捗は、右下に表示されます。

※20分のスライドショーから中程度の品質の動画を作るのに約20分かかります。

# Mac PowerPoint 2019 for Macの場合

**注)PowerPoint 2016 for Mac をご使用の方は動画に  
エクスポート機能がございません。**

**別バージョンで変換して頂くか、keynote等を使用し  
MP4形式で書き出しを行ってください。**

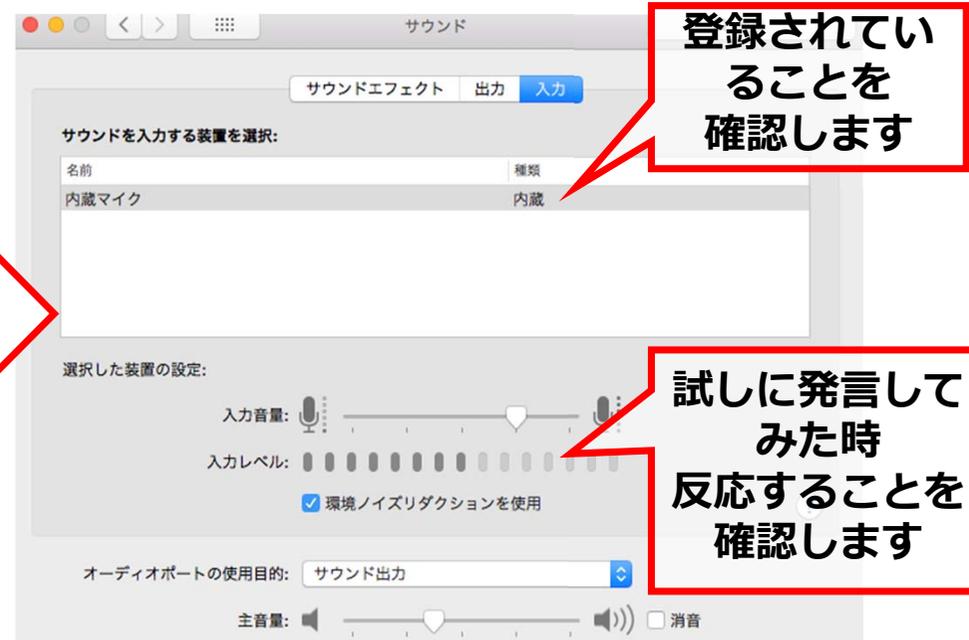
# マイクの確認

「システム環境設定」>「サウンド」>「入力」をクリックし  
入力デバイスが登録されていることを確認します。

「選択した機器の設定」では試しに喋ったときに反応するか確認します。

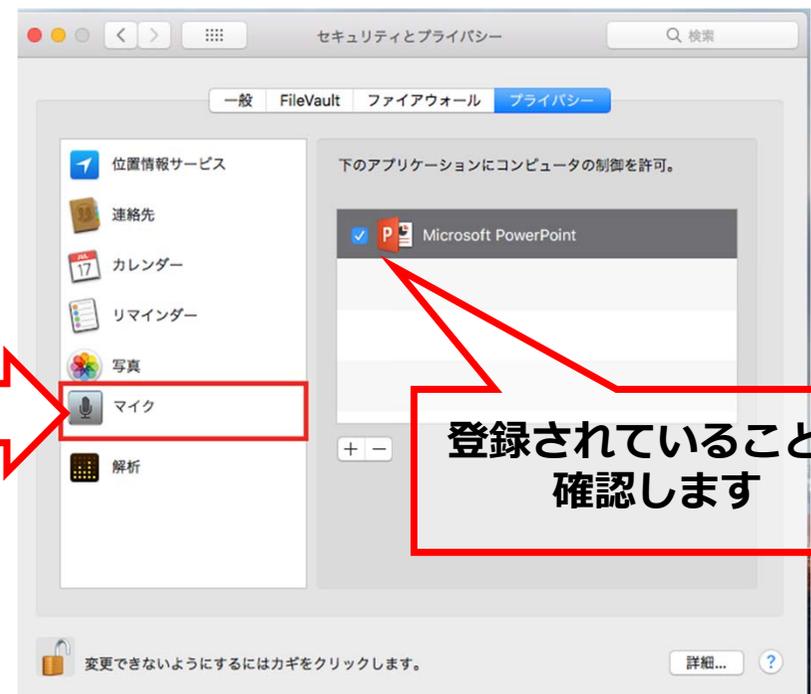


クリック



# PowerPointでのマイク入力の確認

「システム環境設定」 > 「セキュリティとプライバシー」 > 「プライバシー」 > 「マイク」を選択し、PowerPointの項にチェックが入っていることを確認します。



登録されていることを確認します

# PowerPointでの録画の準備

PowerPointでスライドを開き、1枚目のスライドが選択されているのを確認します。  
「スライドショー」>「スライドショーの記録」をクリックすると、自動的に画面がプレゼンの発表者ビューに切り替わり録画が開始されます。

1枚目が選択されている状態であればOKです。

カーソルを合わせた時、「先頭から録音を開始」という注釈が現れることがあります。

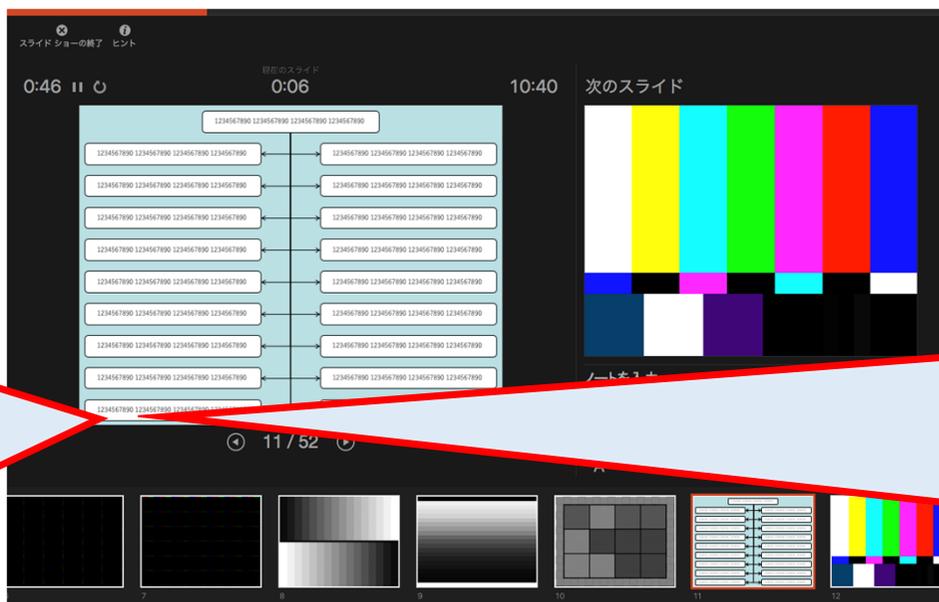
クリックすると画面が切り替わり、録画が開始される。

# スライドショーの実施

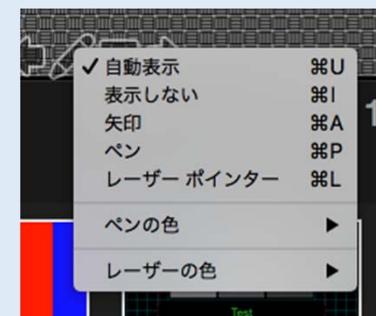
通常通り、スライドショーを行ってください。ペンやポインター等も使えますが、**最終的に動画で記録されるのはスライド移行のタイミングと音声のみです。**

また、**前のスライドに戻ると、戻ったスライド以降の録音を取り消される**事に注意してください。

記録中も、左下のスライドショーツールバーから、一枚目または一個目のスライドに戻れます。  
(非推薦)

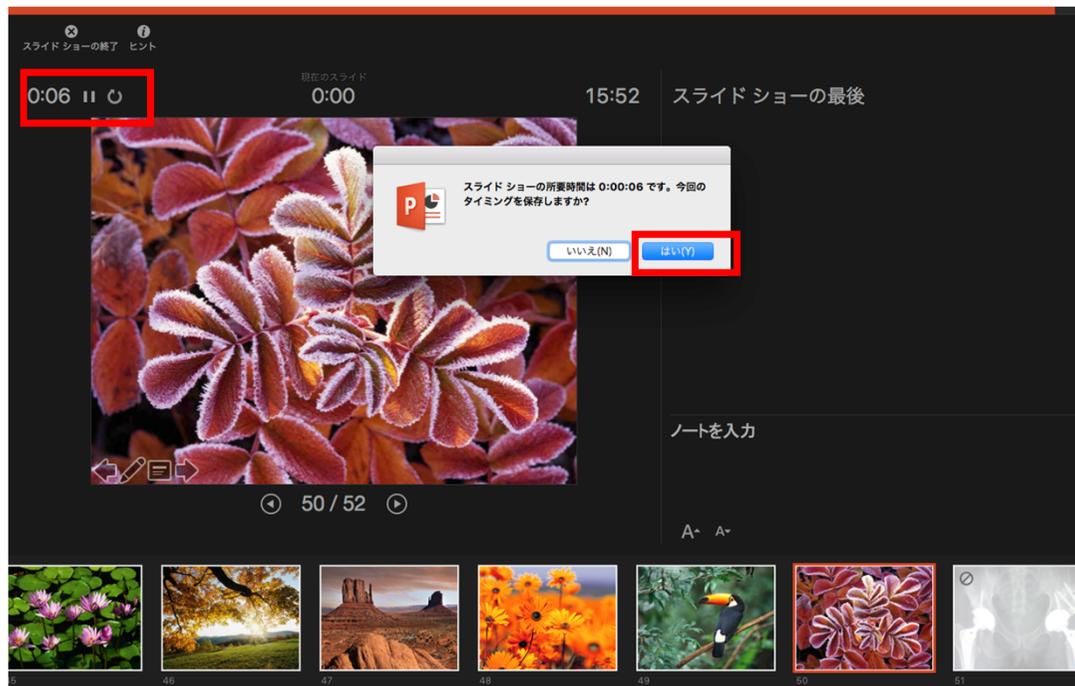


左下のツールバーからペン・蛍光ペン・ポインターが使えますが、これらに関しては記録されません。



# スライドショーの終了

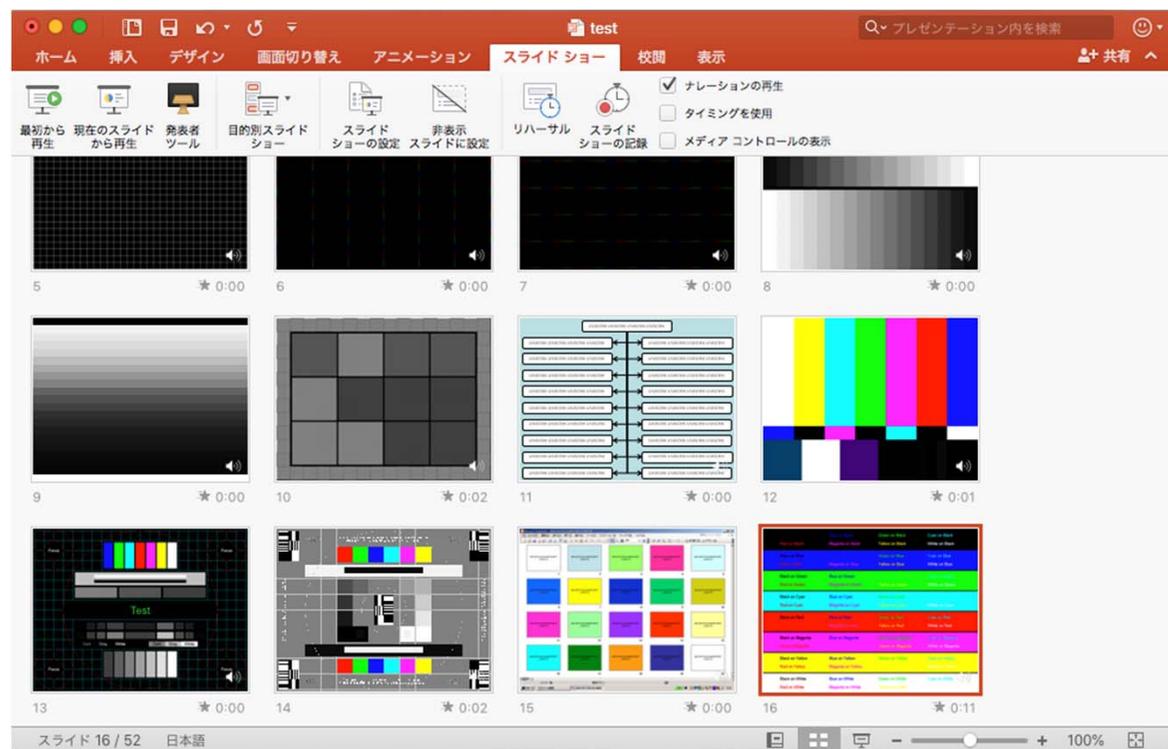
スライドショーを終え、左上の「スライドショーの終了」をクリックすると、「今回のタイミングを保存しますか?」という質問が現れるので、「はい」を選択します。



# 動画に入れるスライドの選択

動画に入れるスライドを選択します。非表示設定をしない限り、全てのスライドが動画に組み込まれてしまいます。

**プレゼンで使用しなかったスライドや動画に入れたくないスライドは、このタイミングで非表示スライドに設定することを推奨します。**



# 保存先の選択

「ファイル」 > 「エクスポート」をクリックすると、ウィンドウが現れます。  
ファイル名、保存先を選択してください。ファイル形式でMP4形式を選択すると、  
詳細が設定できるようになります。



# 画質の選択、動画作成と保存

画質は「インターネット品質」を選択し、「記録されたタイミングとナレーションを使用する」にチェックがついていることを確認します。

「エクスポート」をクリックすると、動画が作成され、自動的に保存されます。

